

仕手株銘柄の探し方：勝つための「たった3つの条件」

仕手筋の心理を読み解き、利益を最大化する論理的アプローチ



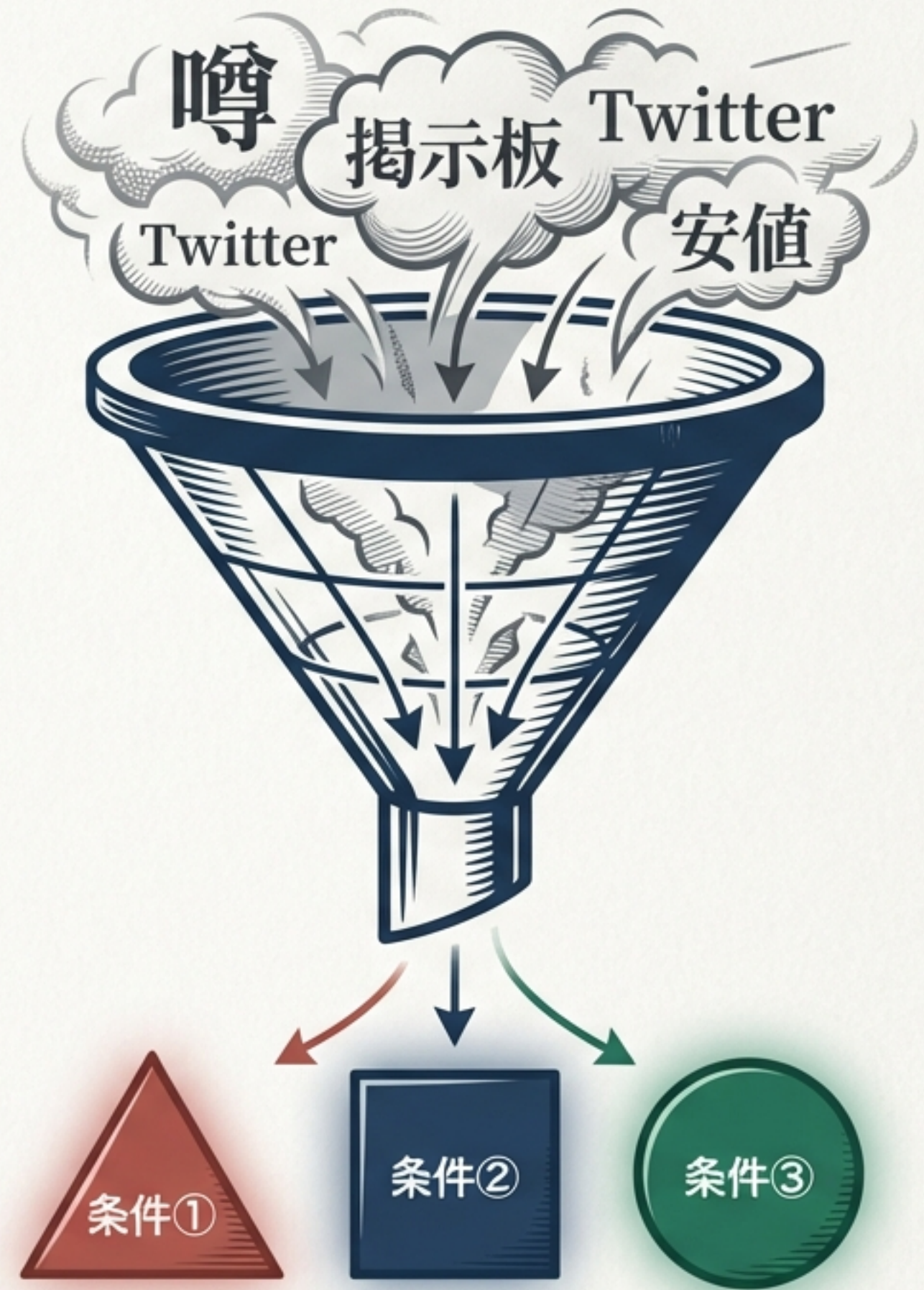
Based on the theories of Shitekabu.com

噂や掲示板はノイズである

多くの投資家は「株価が安い」「動きが怪しい」「ネットで騒がれている」といった理由で銘柄を探すが、これらは本質ではない。

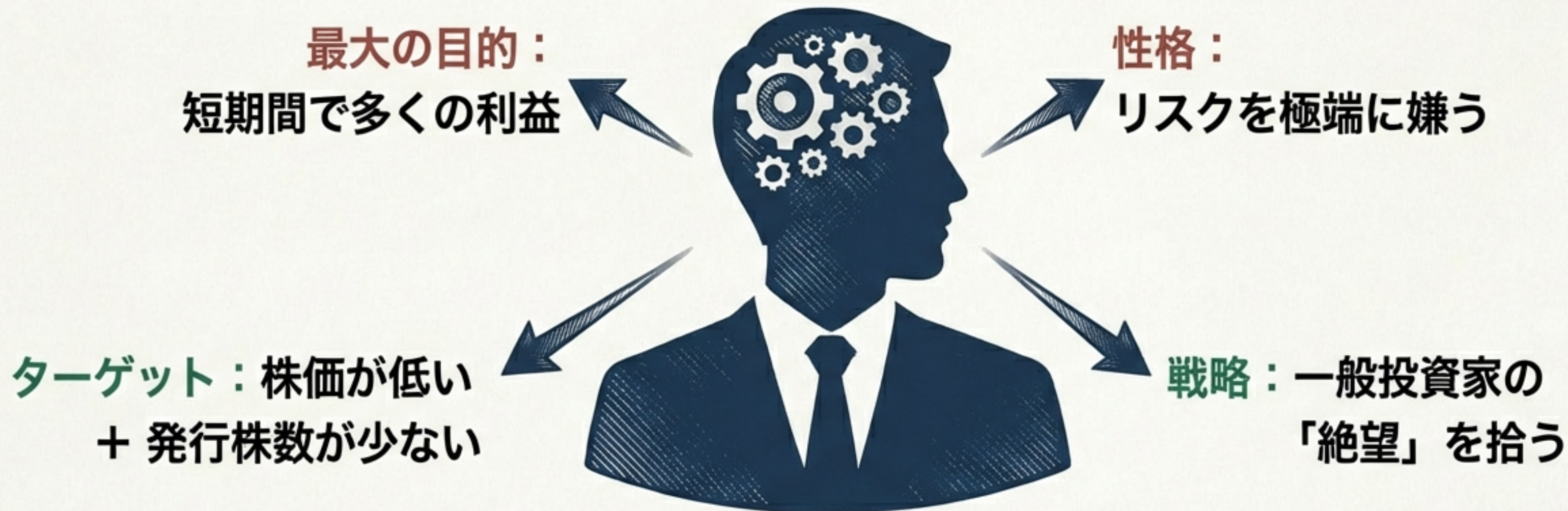
仕手株（理論）において、条件は非常にシンプルであり、たった3つしか存在しない。

迷いを捨て、論理的に仕手株を特定するための「構造」を理解する。



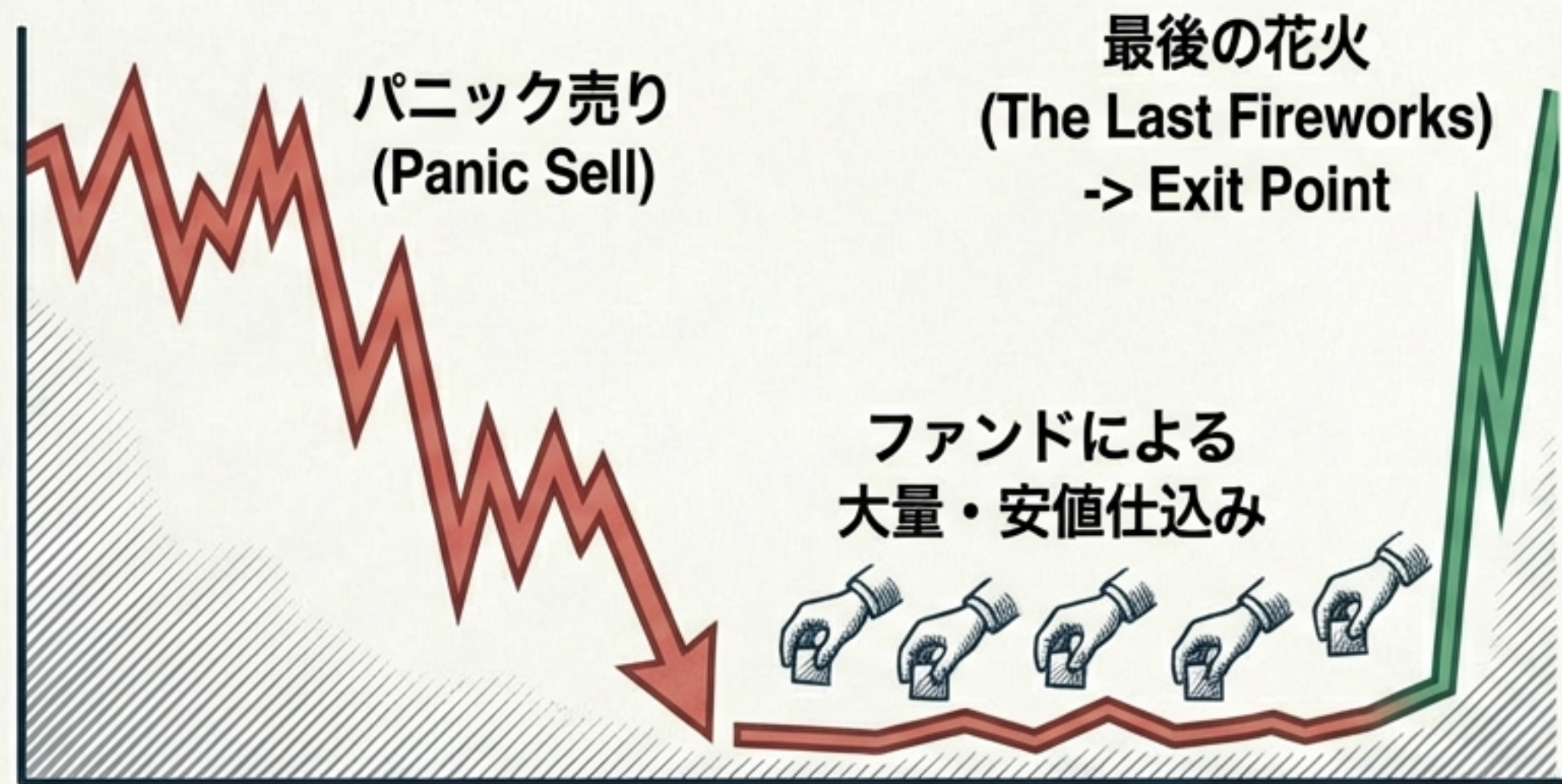
仕手筋（投資ファンド）の行動原理

彼らが求めるのは「短期間での利益」と「低リスク」



彼らは時間をかけたくない。だからこそ、
市場が見放した瞬間に、安く・早く・大量に仕込む。

条件①：上場廃止懸念 「恐怖」を利用して安く集める



メカニズム：上場廃止の不安から保有者が投げ売りを行うため、ファンドは容易に株を集められる。

逆説的だが、廃止前には必ず一度大きな上昇がある。

【検索アクション】「上場廃止懸念」
会社四季報の「継続前提に疑義注記」

条件②：大幅下落

市場に見放された銘柄にこそ価値がある



ファンドの視点：

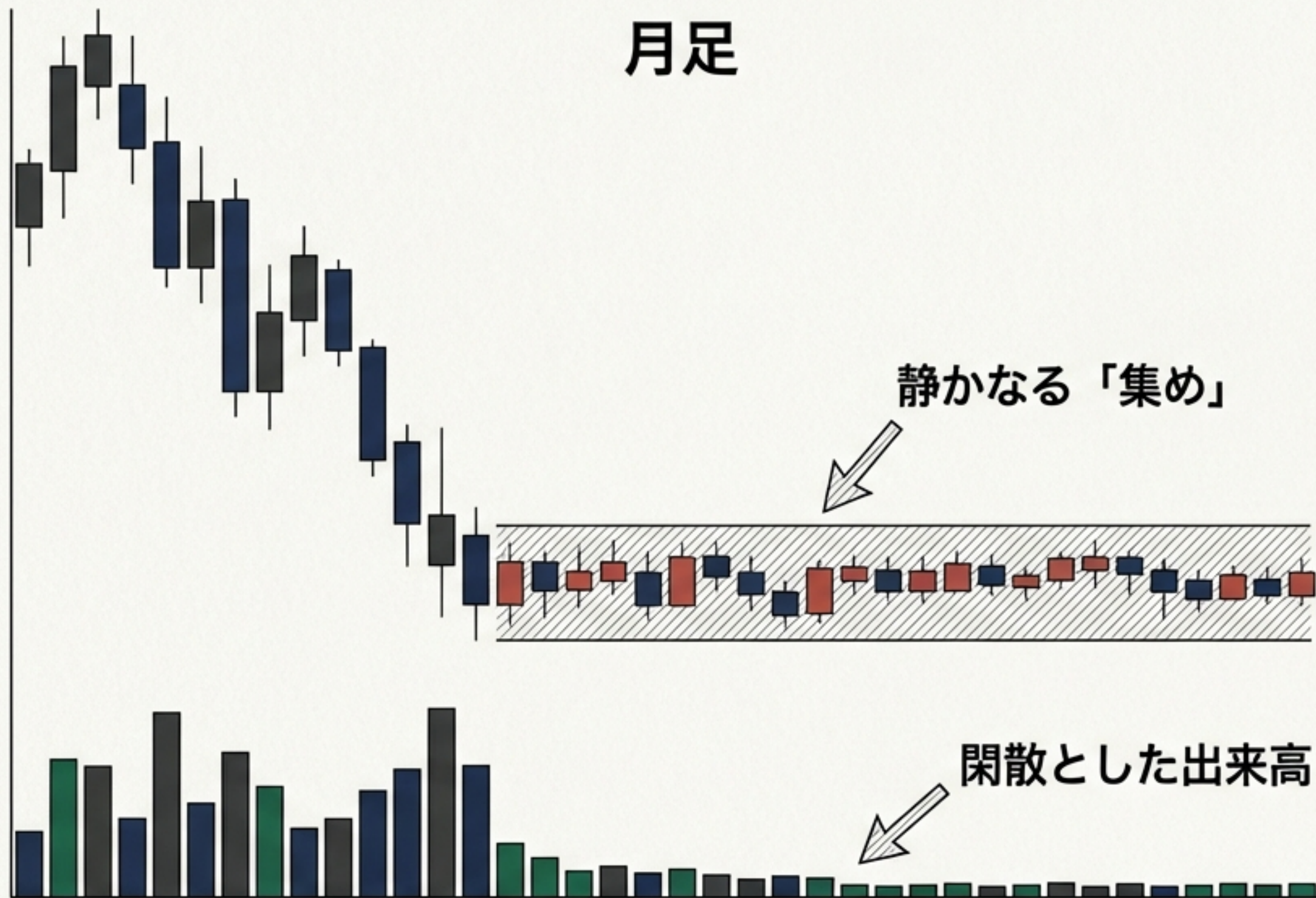
売り圧力が強いいため、自ら資金を使って株価を下げる必要がない。
市場が勝手に下げてくれる「コストパフォーマンスが良い」状態。

【検索アクション】

- ・「ストップ安」
- ・「値下がり率ランキング」の下位

チャートで見る「集め」の合図

月足



見るべき指標：月足（つきあし）チャート

特徴：

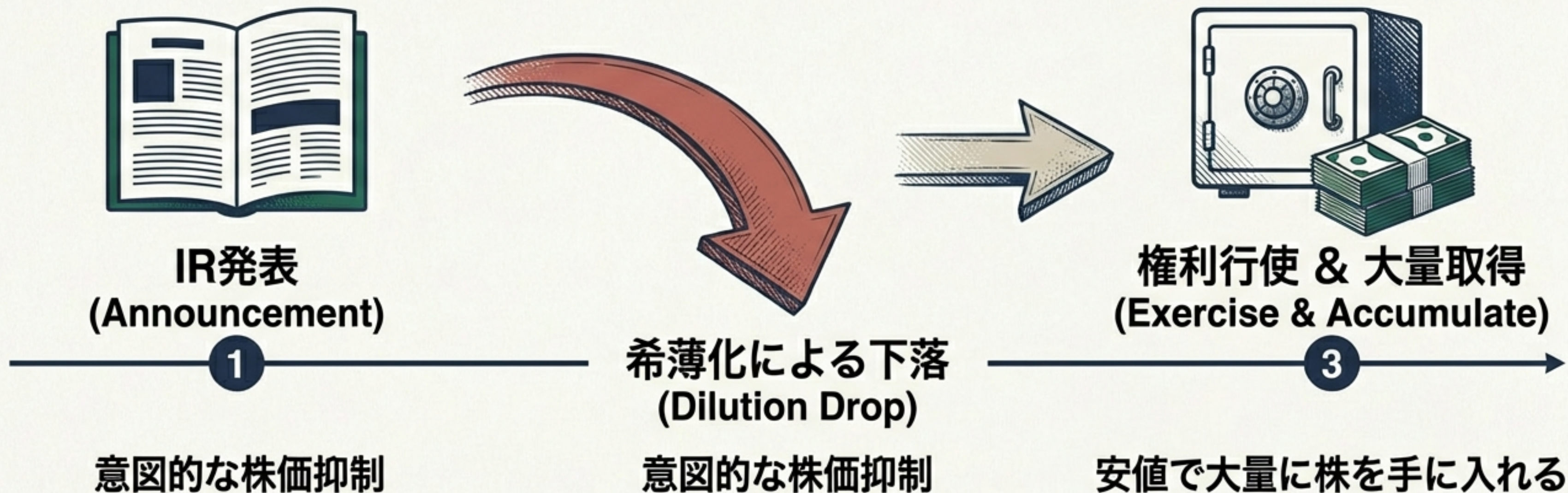
1. 出来高が極端に少ない。
2. 株価が徐々に、静かに下落・横ばいしている。

意味：

仕手筋が市場に気づかれないように、長い期間をかけて安く株を集めている証拠。

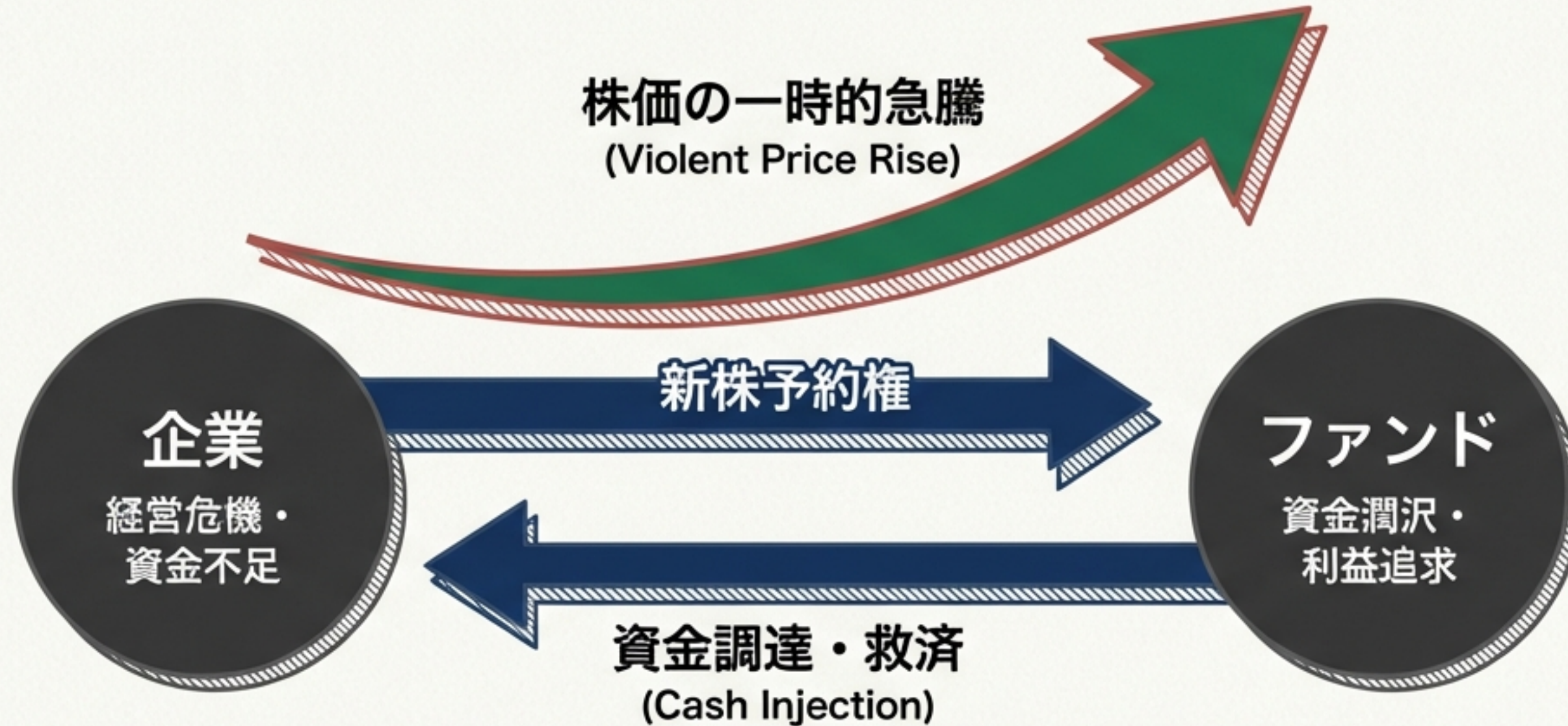
条件③：第三者新株予約権発行

唯一の「故意に株価を下落させる」メカニズム



①②は自然な下落だが、③は仕組みによる意図的な下落である。仕手筋にとって、安く大量に行使するために株価を下げる（または下がるのを待つ）のは合理的な行動。

企業とファンドのWin-Win関係

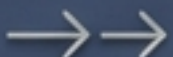
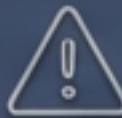


ファンドのメリット：最強の権利（安く・大量）を行使できる。

企業のメリット：株価が下がっても資金調達ができる。

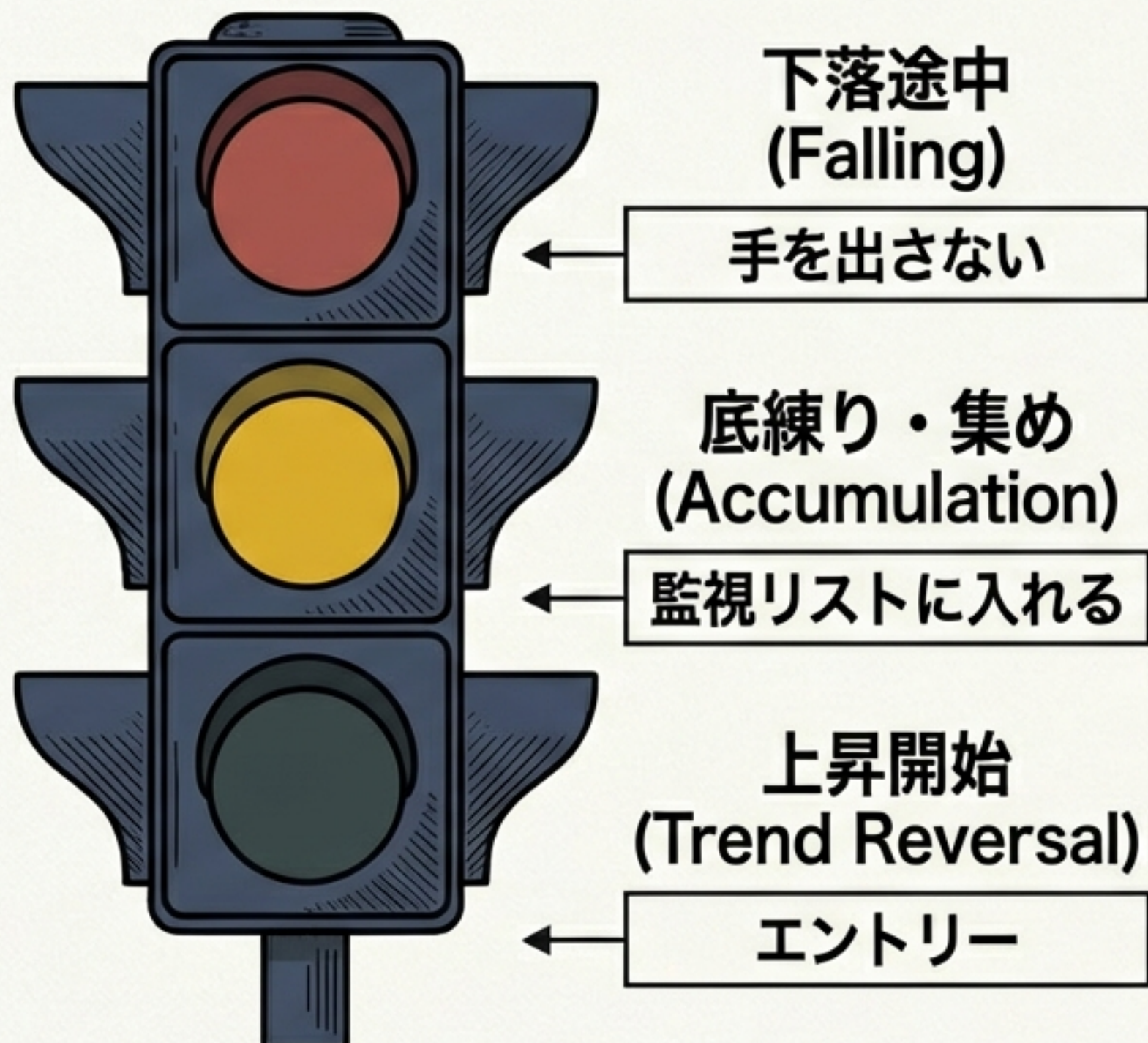
株価の動き：救済により上昇するが、その後の下落は激しい（行って来い）。

3つの条件の比較まとめ

条件 (Condition) 	原因 (Cause) 	リスク (Risk) 	機会 (Opportunity) 
上場廃止懸念	パニック売り	高 (High) 	最後の花火 
大幅下落	市場の放棄	中 (Medium)	静かなる集め
第三者新株予約権	希薄化 (意図的)	戦略的	システムの反発

共通点：ファンドが「安く」「大量に」仕込める環境であること。

監視の鉄則：「待つ」という戦略



タイミング：

下落する過程（途中）で買ってはいけない。
「落ちてくるナイフ」である。

月足のサイン：

長い期間をかけて株が集められる。
月足チャートで底を確認し、
上昇の兆しを待つ。

リスク管理：

いつ上昇が始まるかは不明確。
1銘柄に固執せず、複数の候補を監視し
チャンスを分散させる。

ファンドと同じ目線を持つ

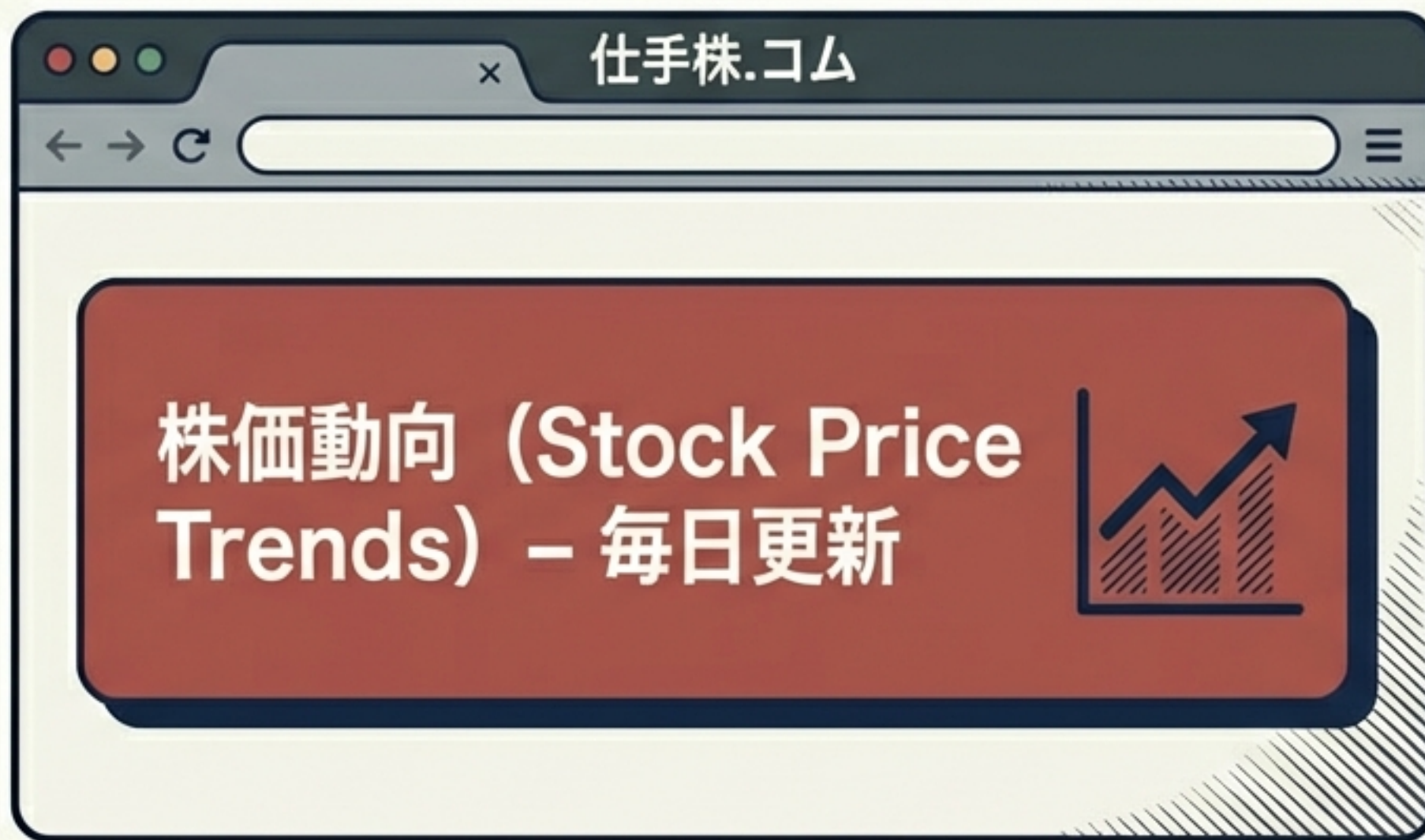


ニュースや感情に反応するのではなく、ファンドの「企み」を先読みする。

なぜ株価が安いのか。
その理由（3つの条件）を知れば、恐怖心は消える。

この理論的枠組みこそが、混沌とした市場での唯一の武器となる。

次のステップ：実践とスキルアップ



仕手株投資で利益を出し続けるためには、日々の株価動向のチェックが不可欠。
本サイト（仕手株.コム）では、理論の実践編として「株価動向」を毎日更新中。
今この瞬間の巡り合わせをきっかけに、仕手株投資家としてのスキルアップに突き進んでください。